

令和元年度 第1回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和元年7月12日（金）午後3時30分～午後4時30分
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 田村 仁彦氏（元堺市立上神谷支援学校 校長） 協議会会長  
八田 忠敏氏（元社会福祉法人コスモス理事長） 会長代理  
井上 直子氏（堺市子ども相談所参事）  
松林 利典氏（堺市障害者就業・生活支援センター センター長）  
島村 俊樹氏（堺市立上神谷支援学校校長）  
北尻 一乃氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会の成立を確認

② 校長挨拶

③ 会長挨拶

④ 協議

(1) 「平成31年度学校経営計画」について

校長より中期目標3点の中から重点目標を中心に説明

- 1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程及び授業内容等の充実を図る。

(1) 教育課程の改善

各コースの目標を明確化し、個別の教育支援計画の目標設定の方法やアセスメント期間を長くとれるように改善を進める。

(2) 校内外での実習等を通じ、生徒のチャレンジする意欲を向上する。

就労支援コースの生徒が校外実習へ行く目的意識を持てているか、1年時から、明確に目標が持てるよう、進路指導部とも連携し進めていく。

(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画等の充実を図る。

目標に対する評価ができるよう、進めているところである。シートについても、研究研修部と検討を進めていく。

## 2 支援教育力の向上

### (1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図る。

性教育を柱にしていく。ライフスキルの指導の充実を図る。自らの気持ちを伝える力をつける必要がある。今年度より医療的ケアのある生徒を看護師を2名配置配置した上で受け入れている。

### (2) センターの機能を果たし地域連携の充実に努める。

堺市の小中学校の支援学級との連携を深めるために、堺市教育委員会と連携した取組みについて検討を進める。

### (3) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。

活用を更に進めるために、Wifi環境を整備していくことを、情報係りと進めていく。シラバスの作成とともに、教材のデータでの共有と蓄積を進める。

## 3 安心で安全な学校環境づくり

### (1) ホームルーム活動、清掃活動などを通じて互いに認め合い協力する力の育成を継続する。

### (2) 危機管理体制を更に堅固なものとする。

福祉避難所の機能について、堺市との連携を進める。

### (3) 部活動生徒指導の充実を図り、自己肯定感を育成する。

バスケットボール部、ソフトボール部が近畿大会に出場した。他の部も部員が増加し盛んになってきている状況である。

- 意見
- ・個別の教育支援計画について力をいれていくことがよくわかった。教師間での共有はどのように行っていくのか。  
⇒「書く」ことと、「行う」ことがリンクしていないところがある。担当者が変わっても共有できるよう、各学期の評価をふまえ次の学期目標を積み上げていき、9回のステップを踏み、活用できるよう進めていく。
  - ・支援学校はチームティーチングが中心であり、教師が同じ方向性を共有し、それを保護者に提示する。教師間が共有するツールとすることが重要である。  
⇒何のために授業をしているのか、その生徒にとって何がどう大切なのか、つけたい力について3年間で計画的にやっていく。
  - ・個別の教育支援計画は地域の小中学校でも作成している。ケース会議の場などでも活用できるものであってほしい。

- ・わかりやすい計画である。なんのためにやっているのかが明確でないとやり方も変わっていくことがよくわかった。効率化と、効果を先生方にどのように伝えていくか。理解の度合いが違わないよう情報の共有が大切である。また、保護者との共有も必要である。  
⇒トップダウンではなく、教師自らが課題を設定していくことが大切である。様々な教師から意見が上がってくる状態が望ましい。
- ・校長先生が1年間学校の様子をよく見て確かめておられると聞いて、学ばせていただくところである。
- ・わかりやすい計画である。個別の教育支援計画については教師間で共有することを念頭に作成を進めるものである。
- ・医療的ケアの実施については、堺市の課題でもあると考えている。
- ・センター的機能の充実ということで、堺市の枠組みができつつあることはよいことである。
- ・ICT環境についても、連携を深めていきたい。
- ・福祉避難所の運営などについても、連携をとってすすめていけたらと考える。
- ・生徒が校外に実習に行く前に不安定になるのは、新しい世界でがんばっていきこうという気持ちからではないか。サポートができるような教育内容であってほしい。
- ・事業所の報酬単価の改定があり、成果主義になってきている。高等部から安心して作業所に行くことが叶うのか。子供たちを支える環境条件が大切である。
- ・第1もずあけぼの療育園ができた当初も堺市立であったが、府立医療センターから支援を受けた歴史的な経緯がある。府市の連携がとれることが大切である。
- ・目標がそれぞれにおかれていてわかりやすい。個別の教育支援計画の生徒の見きわめは難しいところ。何人もの教師が見た中で総合的に1人1人にあった計画を立てていただくとよい。毎日、様々なことが起こるが、担当だけにまかさず、どのように共有するのか。アセスメントは方針をたてることであり、会議の時間が限られる中で多くの情報を整理し、考えが相手に伝わるように進めなければならない。人材育成も含めて必要である。保護者もまきこんで共有していく。みんなが同じ方向むいて考えていくと、支援につながり、目標が達成できるのではないか。
- ・保護者としては、ネガティブな面が少なくなり、表情が明るくなったと感じる。先生方1人1人が、生徒の様々な面を見てできたことを、

連絡帳などで知らせてくれる。母親としても、この学校でよかったと感じている。校内実習等をとおして、自分ができることを生かして社会生活につなげてほしい。

(2) 教科書選定について  
進捗状況について教頭より報告

(3) その他  
保護者からの意見書、校長 D メールについて  
無しの旨を教頭から報告

⑤ 会長まとめ  
シラバスや指導計画は学校が主体的に作成するものである。保護者の願いを受け入れることは大切であるが、学校が主体的にこうするというものを持っておくことが大切である。シラバスについても主体的に検討してほしい。根付くようになったら、素晴らしいものになるのではないか。

⑥ 校長より謝辞

⑦ 事務連絡  
次年度の日程について